

# 指導者用デジタル教科書と電子黒板の活用で、 児童の理解を促進する学習

第5学年

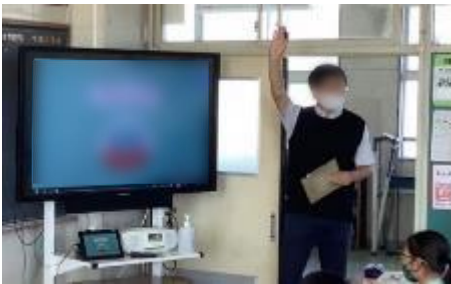
Unit4

What time do you get up?

こんな子どもたちの姿が生まれました!

- 登場人物のやり取りを、目的をもって視聴することで、内容を理解することができました。
- 目的や場面、状況に応じて、自分のことを伝えようとする意識が高まりました。

## 指導者用デジタル教科書の活用による効果



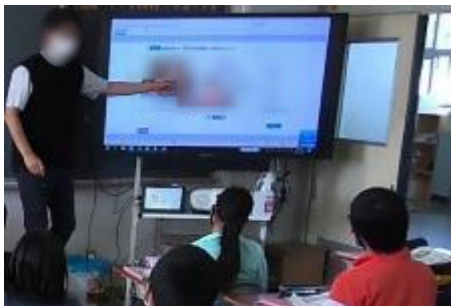
児童の実態やニーズに応じて、音声教材のスピードを調整することで、児童の理解の促進を図る。

- ・チャンツでは、1回目は通常の実行速度で行い、2回目は児童にスピードについて尋ねる。
- ・その際、児童が手を挙げて意思表示ができるようにして、個々の理解の状況を把握し、個別の援助に生かす。



話される内容に関わる写真や動画を提示しながら、児童とやり取りをして、児童の理解の促進を図る。

- ・英文を聞かせる時は、内容について質問したり確かめたりしながら、簡単に児童とやり取りをして、イメージをふくらませることができるようにする。
- ・画面を指し示しながら発話し、視覚的に理解しやすくする。



画面上の情報(登場人物や時刻など)を確認し、自由にアウトプットさせる。

- ・対話を聞かせた後、児童が聞き取った内容を、児童の言葉で確認する。
- ・児童が自分なりに聞き取れることができたことを認め、価値付ける。
- ・聞き取った内容に関連付け、本時のキーセンテンスを用いて、児童に問いかけをする。

## 教師の指導のポイント

- 音声教材は再生速度の調整機能を活用し、児童の様子を伺いながら、「Slowly? Standard?」と確認し、全員が理解できるようにスピードを調整する。また、もう一度聞きたいかどうか、児童のニーズを確かめることで、意欲的にチャレンジできるようにする。
- 理解が難しいと思われる英文の時は、聞き取る際の助けとなるように、事前に key (鍵) となる語いや表現を、児童とのやり取りの中で触れておく。
- 聞き取った内容をもとに、「How about you? (あなたはどうか?)」と全体に問いかける。さらに「〇〇さん、How about you? What time do you go to bed?」と、個々に問いかけ、児童が自分だったらどう答えるかを考えることができるようにする。こうした教師と児童とのやり取りによって、教室が実際のコミュニケーションの場となり、目的や場面、状況に応じて、本当の自分のこと(本時では「日頃、何時に寝ている時刻」)を伝えようとする意識を高める。

# 第5学年 外国語科 学習指導案

1 単元名 「Unit 4 What time do you get up?」

2 単元指導計画

時	主な学習内容
1	アニメーションを通じて、手伝いや1日の生活の言い方を知る。
2・3	どのくらい手伝いをしているか話すときは、“always”、“usually” “sometimes” という言い方を使えばよいことを知り、自分が行う手伝いとその頻度について伝える。
4・5	いつ何をするかをたずねるときは、“What time do you ~?”、いつするかを答えるときは、“I usually ~.” という言い方で伝え合えばよいことを知り、1日の生活でいつ何をするのかをたずねたり答えたりする。
6・7	これまでに学んだ語句や表現を使い、休日の過ごし方についてたずねたり答えたりする。

3 本時について (4/7)

(1) ねらい

1日の生活でいつ何をするかをたずねたり、言ったりする言い方を知ることができる。

(2) 評価規準

いつ何をするかをたずねるときは、“What time do you ~?”、いつするかを答えるときは、“I usually ~.” という言い方で伝え合えばよいことを理解している。

(3) 学習展開 ◎本時の中心活動

過程	学習活動	教師の指導・援助 (留意点)
導入	<b>1 Greeting time</b> ・挨拶をする。 ----- T: Hello, everyone. S: Hello, Mr. Furuta. T: How are you? S: I'm (good.)(tired.)(sleepy.)(happy.) T: Ask me. S: How are you? T: I'm good. Hello, SI さん. How are you? SI: I'm (good.)(tired.)(sleepy.)(happy.) ----- <b>2 Song time</b> 【Let's chant】 I always do my homework. ----- T: Today's song is this chant. Sing two times. First time, standard. Let's sing. T: One more time. Slowly or standard? S: Slowly. (Standard.) ----- <b>3 Small talk : 「帰宅後の過ごし方」</b> ・夕食の時間を中心に、帰宅後にすることを紹介する。 ----- T: I usually go home at 8:00. I usually eat dinner at 8:30. How about you? What time do you eat dinner? (S: I eat dinner at ○○.) I sometimes eat noodle. I like noodle very much. Do you like noodle? (S: Yes, I like noodle.) -----	・全体であいさつを行った後、個別に数名の児童と挨拶を行う。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【ICT 活用の工夫】</b>            ・【 】で書いてある活動については、デジタル教科書を使い、活動を進めたり、確認したりする。         </div>  ・前時にも取り扱った chant なので、1回目は通常の手速で行い、2回目は児童にたずねて速度を決める。 ・速度をたずねる際には、児童が手を挙げて意思表示ができるようにする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【ICT 活用の工夫】</b>            ・Small talk で話題になっていることが児童に分かりやすいように、画像を見せながら話をする。             ・一方的に話すのではなく、児童を会話に巻きこみながらやり取りを織り交ぜて話をする。         </div>

#### 4 本時の学習課題を確認する。

1日の生活でいつ何をするかを聞き合おう。

#### 5 Challenge time

##### ① 【Let's watch】 将太が寝る時刻

- ・アニメーションを見て、将太が寝る時間を確認する。

T: What time does Shota usually go to bed? (S: Eleven.)

T: Good. He usually goes to bed at 11:00. How about you?

What time do you go to bed? (S: Nine.)

T: At nine. You usually go to bed at nine. Good!

##### ② 【Let's listen】 すし職人の一日の生活

- ・金田さんの行動について時刻を聞き取り、書き入れる。

T: What does Kaneda san do? (S: 起きた。)

T: Good. 「起きた」 is get up in English.

##### ◎ ③ 【Let's try】 友達と放課後の生活についてたずね合う。

- ・寝る時間と食事をする時間などをペアでたずね合う。

(ペアを変えて、4回行う。)

T: Ask your friends what they do after school. Let's start.

S1: I eat dinner at 7:00. What time do you eat dinner?

S2: Me too. I eat dinner at 7:00. I go to bed at 9:30. What time do you go to bed?

S1: I go to bed at 9:00. ……

##### ④ 【Let's write】 c と d の音と書き方

- ・アルファベットジングル c、d を聞く。
- ・c、d の発音を示し、c、d から始まる単語の発音を練習する。
- ・ペンマンシップ・シートの c、d の文字をなぞる。

#### 6 Kirakira time

- ・本時の活動を振り返り、振り返りシートに記入する。
- ・挨拶をする。

- ・アニメーションを見る前に、教科書に出ている内容について簡単にやり取りする。

- ・答え合わせのときに、基本表現を確認する。特に時刻の前に at が付くことに気付くことができるように板書する。

- ・また、What time do you go to bed? と児童にたずね、返答の仕方に気付くことができるようにする。

- ・聞き取り後、get up、market、breakfast などの語句を AET と確認する。

- ・本時扱う行動(寝る時間・食事をする時間)について、“What do they do?” と聞き、確認する。

- ・活動を行う前に、デジタル教科書でやり取りのモデルを示す。

- ・ペアを変更前に表現に困ったことを共有化し、表現の確認を行う。

#### 【ICT 活用の工夫】

- ・c,dの文字の手本を電子黒板の4線上に書き、小文字の高さを意識できるようにする。

- ・本時のねらいに照らして、児童の姿を価値付ける。

展開

まとめ